

手をつなぐ親の会

No. 1



今年もいよいよ残りわずか、木枯らしが吹きすさぶころとなりました。
第1回目のコラムでは、手をつなぐ親の会 会長 長山朋幸さんのお話です。



長山さん

こんにちは。我が家の長男はダウン症です。今年20歳、あっという間の20年！されど20年。ダウン症と告げられたとき、「先生、20歳まで生きられますか？」と聞いたこと。本当についこの間の事のように。そしてすぐに心臓の手術の為、奈良に向かいました。何が何だかわからないまま、次々と手術や入院の繰り返しでした。

■就学に向けて…親として、子どものためにどのように活動していったのか

保育園に通いはじめて、なんだかちょっと落ち着いてきたかなと思った時、耳が聞こえないかも??えっ?保育園と並行して難聴通園の日々…。すると「小学校はどうする?」と年中さんの時の難聴通園の先生に聞かれ、もう?まだ早くない?と思いつつ、聾学校や支援学校の事を調べたり見学に行ったり…。支援学校って?支援学級って?どう違う?次々と?が浮かびます。丁度タイミングよく保健所の保健師さんが高知県教育委員会の先生を招いて話をして下さるということを知り、「よっし」と話を聞きに行きました。なるほど、難聴の先生がこの時期に聞いてくれたこと、よかった～。いろいろわかったけど、じゃあ子どもに合ったところはどこだろう?悩む!すると、手をつなぐ親の会に繋いで頂き、相談にのってもらいました。体験談を交えた考え方などとても参考になり、とりあえず、息子はお友達が大好きだからもう少しみんなと一緒に学ばせてもらおうって思いました。佐川小学校の支援

学級へお願いしたい!今の小学校の支援学級の見学できるかなあ、教育委員会に現状を聞きたいなあ、そんなことを思っていたら保健所の保健師さんが段どって下さり、教育委員会で話を聞くことが出来ました。有難いことでした。それが年長さんの春の頃だったと思います。それからバタバタと日が過ぎていき、秋頃だったと思いますが支援学級に入学OKの通知が届きました。



■親の会とつながっていてよかったこと

本当にたくさんの方々に来て頂き、実際に目で見ると、話を聞くという事、そしてその場所に子どもがいるイメージを重ねてみるのが大事なのだと思えました。手をつなぐ親の会の方々には、その後も色々相談にのってもらっています。個人であきらめてしまう事もみんなの意見を聞きながら後続ける方々の為に少しずつだけ声をあげてみようと思っています。

また佐川町にはどんぐり会という県下でも少ない障がいのある子どもを持つ親の会があります。現在は休止となりましたが、どんぐり会では支援学校や施設、作業所の見学や体験談、今困っている事などを取り上げて頂き私達の声を行政に届けてくれました。佐川町の保健師さんや担当の方々には本当に親身になって考えて下さっています。いつも頼ってばかりですが、何か私の経験が役に立つことがあればと思います。今、息子は元気に作業所に通っています。

佐川町手をつなぐ親の会

こんな活動をしています

- 全国・四国・県手をつなぐ育成会の大会や研修会への参加
- 親子遠足、クリスマス会、新年会など

お問い合わせ先

佐川町社会福祉協議会 22-1510 (事務局)

手をつなぐ親の会 副会長 藤田千砂 22-3255

